

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月7日 5校時
生徒 一関市立山目中学校 1年2組
男子18名 女子15名 計33名
授業者 小野寺 明子

【 説明的文章における読む力を高める学習指導のあり方 】 — 論の述べ方を実感させる指導の工夫 —

1 単元名 五 真実を語る 「未来をひらく微生物」(光村図書 1年)

2 単元について

(1) 生徒について

① 実態

平成19年度岩手県学習定着度状況調査の結果を見ると、中学生は「読むこと」の領域が他の領域より正答率が低いという状況にある。

② 学習経験

中学1年生は、一学期、「第2単元 視野を広げる」で「ちょっと立ち止まって」・「クジラたちの声」の二つの説明的文章を学習している。ここで、生徒達は、次の点について学習している。

一つ目は、論理的な文章には構成「はじめ(序論)ーなか(本論)ーおわり(結論)があるということである。

二つ目は、序論で問題提起をして、その説明を行う論の展開の仕方である。

これらの学習を通して、生徒達は説明的文章の構成についての基本的な事項は学んだものの、段落相互の役割を考えると、わかりやすい論を展開するための様々な方法の知識や理解は定着していない。

③ つけたい力

相手にわかりやすく説明するためには、具体的に述べるのが大切であることを確認し、そのための工夫と効果について考え、自らの表現力として身につけることを目指したい。

(2) 教材について

本教材は、段落の初めに、「まず」「そこで」「だが」などの接続語や、「このように」「これらの」といった指示語を用いることで、それぞれの段落の関係と役割がつかみやすくなっている。

また、話題提示の際も、「ひとつは・・・、もうひとつは・・・」と述べたり、「第1の方法は・・・」「第2の方法は・・・」と述べたりするなど、方向指示となるような言葉が用いられ、生徒にとって読み進めやすい文章になっている。

表現の仕方においても、「病気の人に、栄養のある食事を取らせ・・・と似ている。」というように、微生物による環境回復のしくみを人間の健康回復のしくみにたとえたり、具体例、図や写真の引用等、内容を具体的に説明するための工夫をしたりしている。以上のことから、本教材は、段落の役割に着目して文章を読み、筆者の表現方法の工夫をとらえるのに、適した教材である。

(3) 指導観

本単元は、段落の役割や文章構成、表現の工夫を理解させるために、説明的文章で「読むこと」の学習が位置づけられ、その後、レポートをまとめる「書くこと」の言語活動に結びつく流れとなっている。

説明的文章の学習は従来、内容を詳細に読み解いたり、段落分けの正答を追及したりするものが多かった。しかし、これからは段落のもつ役割や、語句の使い方、文章構成など、筆者の表現の工夫を読み取り、いかに効果的であるかを考える学習も必要となる。そこで、その手立てとして、段落をばらばらにしたものを並べ替えて、適切な文章に直す学習活動を取り入れ、段落相互の関係や、文章構成をとらえさせたい。

さらに、リライト教材と教材本文を比較させることで、接続語、指示語、キーワード、例示やデータの引用等に注目させ、筆者の論の述べ方の工夫を実感させたい。そしてそこから、生徒自身の今後の表現活動にも活用させるような指導をしていきたいと考える。

3 単元の目標及び評価規準

	単元目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	○微生物と環境に対する筆者の見方や、考え方を理解させる	○自分との関わりを考えながら文章を読むとしている
読む	○接続語や指示語の効果的な使い方やたとえの表現など、叙述の特色に着目させる ○段落の役割に着目し、問題提起、例示、詳細な説明などの働きについて読み分け、文章構成や展開を正確にとらえさせる ○微生物と環境との関係を理解させ、新しい情報を集めさせる	○接続語や指示語の役割を理解し、読み手に配慮した文章の工夫点を挙げている ○段落の役割を理解し、文章の構成をつかんでいる ○文章を読み、目的をもって、的確な方法で情報の収集と整理をしている
書く	○伝えたい事実や事柄、自分の意見や感想を明確にして文章をまとめることができる。	○文の構成や表現の工夫を意識し、自分の考えを、レポートにまとめている。
言語事項	○科学用語や漢語など、多様な語句について理解を深めさせる	○文の組み立てを考えたり、語句の意味を辞書で調べ、文脈に沿ってとらえている

4 単元の指導計画

時数	教材	学習の内容
4	未来をひらく微生物	・文章中の重要な語句の意味を正しくとらえる ・段落の役割に着目して文章を読み、構成や例の挙げ方など、筆者の表現方法の工夫をとらえ、理解する ・微生物と環境との関係を理解し、微生物の利用のしかたなどに関する新しい情報を集める
6	調べたことを正確に伝えよう レポートにまとめる	・微生物の利用のしかたなどに関する情報や課題を、身近な生活から課題を見つけ、それに適した方法で情報を集める ・事実や意見が正確に伝わるよう、文章構成や表現に注意してレポートを書く ・互いのレポートを読み合い、材料の集め方や表現の仕方の工夫などを自分の参考にする
2	文法② 文の組み立て	・文の組み立てを考える
1	漢字⑤ 辞典を活用しよう	・辞典を活用して語彙を豊かにする

5 本教材の指導計画と具体的評価規準

時間	学習内容	具体的評価規準
1	小学校4年生教材「かむことの力」で、文章構成の基礎を確認する	【読】 接続詞に着目し、段落の並べ替えをし、また、序論・本論・結論の三つに分けている
2	本教材の、序論・結論を読み、大意・題意について理解する	【読】 序論から微生物の働き、結論から問題解決についての筆者の考えを理解する
3	本教材の、本論部分の文の構成について学習する	【読】 接続詞、指示語、中心語句に着目し、文の構成を考えている
4 (本時)	本教材の、本論部分の筆者の表現の工夫について着目する	【読】 筆者の工夫に気づき、どんな効果があるのか、考えることができる

※ 参考 次時の予定

5 微生物を利用した環境問題の解決策が身近にないかを調べる

6 本時の指導

- ① 目標 本論における表現に着目し、筆者の工夫について考える
- ② 具体的評価基準

評価規準	A:十分に満足できる	B:概ね満足できる	C:努力を要する生徒
本論を読み、筆者の表現の工夫をと、その効果に気づいている	筆者の工夫と効果をとらえ、さらに表現の特徴に気づいている	筆者の工夫に気づき、どんな効果があるのか、考えている	グループ学習を仕組んだり、既習事項を活用したりし、思考を促す

7 本時の目標

(1)本時の目標

本論における筆者の工夫に着目し、効果について考えることができる。

(2)展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5	<p>1 課題意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要約文と違うのはどこの部分なのかを把握する。 <p>2 学習課題をつかむ。</p>	<p>1 教科書文の——線部分をペアで確認し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業や家庭学習の中で——線を引かせたい。
展開 33	<p>3 本時の学習を見通す。</p> <p>4 学習課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの文章の違いに着目することで、筆者の工夫や表現の特徴に気づく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例 (例) ・データ (数値・数字) ・たとえ (比喩) ・実践例や成功例を取り上げる など </div> <ul style="list-style-type: none"> ・——線部分に見られるような工夫があることで、どんな効果がえられるのかとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい ・信用できる ・伝わりやすい ・イメージしやすい ・身近に感じる など </div>	<p>3 2つの文を比べ読みする。(8段落)</p> <p>4(1) 7段落、14段落～16段落について、——線部分を読み直し、——線部分ではどのような工夫が見られるのか各自で考える。</p> <p>(2) グループ毎に気づいたことについて出し合う。</p> <p>(3) 全体で工夫についてとらえる。</p> <p>(4) ——線部分のような工夫があることで、要約文と比べてどんなよさがあるのか、グループで考えを出し合う。</p> <p>(5) 全体で出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の課題解決の見通しをもたせる。 ・具体例、データ、「たとえ」などを使っていることを確認する。(机間巡視・学習プリント) ・わかりやすさやイメージのしやすさなどにつながっていることを確認する。(机間巡視・学習プリント) ・写真・図が使われている点については授業者側で提示し、その効果についても触れる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A 工夫と効果をとらえ、さらに表現の特徴に気づくことができる。</p> <p>B 工夫に気づき、どんな効果があるのか、考えることができる。</p> </div>
	終末 7	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>6 次時の学習について知る。</p>	<p>5 「わかったこと」やレポート作りに活用したいこと」など、今後の学習を意識した形でまとめる。</p> <p>6 次時はレポートの形式と進め方について学習することを学ぶ。</p>

(3)板書計画

未来をひらく微生物 大島泰郎

(傍線) を引いた部分が必要なものは、なぜなのだろう。

例文 A
例文 B

工夫点など

よい点 (効果)

⑧

.....

⑦

.....

④

.....

⑤

.....

⑥

.....

☒ (視覚に訴える工夫)

写真

- ・言葉だけではなく、☒でも確認できるのでイメージしやすい
- ・目に見える形なので、言葉だけよりも伝わりやすい
- ・.....